



バックナンバーは  
メディアサイトで

びったりが見つかる

# 親子の絵本時間

picture books

今月の  
質問

動くのが大好きになってきた娘のために、  
読みながら一緒に動ける絵本を知りたいです。

(8カ月女の子のママ)

赤ちゃんと遊びやすいの

は、シンプルでアレンジしやすく、リズムカルな言葉の繰り返しがある絵本です。わらべうたを元にした『どんぐりころちゃん』(※1)は、歌に合わせて頭やお尻をさわったり、「ぼーん」のところで高い高いをしたり、親子遊びを前提に作られています。ページをそ



(※1)  
みなみ じゅんこ/作  
アリス館



(※2)  
かどの えいこ/文  
ボコヤマクリタ/絵  
ポプラ社

のまま読むだけでなく、途中を何度か繰り返し返してあげてもOK。楽譜や遊び方もついています。

『ダンスダンスタッタ』(※2)も、女の子と動物のダンスが次々と繰り返し広げられる楽しい二冊。ママのおひざでゆらゆらしたり手を動かしたり。立つちがで



(※3)  
軽部武宏/作・絵  
小学館

きる子は、真似をして踊ってもいいでしょう。  
じつくり遊びたい時には『ブンブンひこうき』(※3)もおすすすめ。上空から地上を眺めているような絵がページいっぱい描かれ、ママのおひざで「ブーン！」と言いつつ、飛行機に乗っている気分が遊べます。急降下したり、鳥を避けたりしながら一緒に体を動かしましょう。少し大きい子にもいいですよ。

## 読み方アドバイス

Q.語りかけや説明を加えてもいいですか？  
「ジュースが6杯」という本文で、「1、2…」と数えながら読むなどです。

### A.子ども自身の想像力を邪魔しない程度ならOKです

数を数えたり、「〇〇がいるね」と絵本の内容をそのまま説明したりする程度ならいいと思います。ただし、**ママの主観が入ってはいけません**。たとえば、子どもが盛大に部屋を散らかすシーンで「うわあ、大変だね！」というような語りかけは、絵本の説明ではなくママの感想。子どもの自由な発想を妨げてしまいます。

また、どの程度まで付け足してもいいのかは、お子さんの年齢にもよります。小さな子であれば、擬音語・擬態語などを加えてイメージしやすくしてもいいのですが、**3〜4才くらいからは絵本にない言葉は極力足さない**で、子ども自身の想像力を伸ばしてあげましょう。

絵本と図鑑の親子ライブラリー ヒブリオキッズ  
司書の安藤さん

答えてくれたのは